

1-1 建物概要

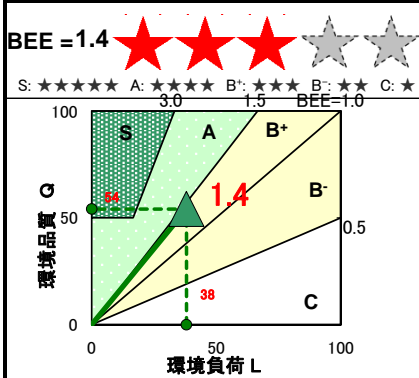
建物名称	相模原市立麻溝小学校A棟校舎
建設地	相模原市南区下溝713
用途地域	第一種住居地域、準防火地域
地域区分	6地域
建物用途	学校
竣工年	2019年2月 予定
敷地面積	2,459 m ²
建築面積	1,210 m ²
延床面積	2,786 m ²

階数	地上3F
構造	RC造
平均居住人員	960 人
年間使用時間	1,200 時間/年
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2016年12月2日
作成者	(有)北山建築設計事務所
確認日	
確認者	

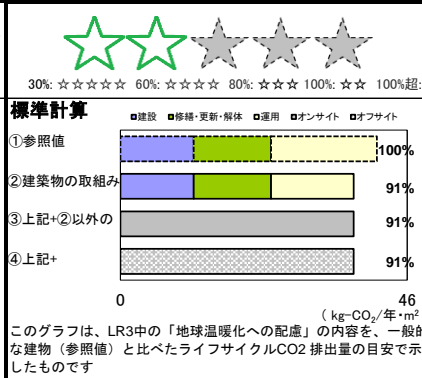
1-2 外観



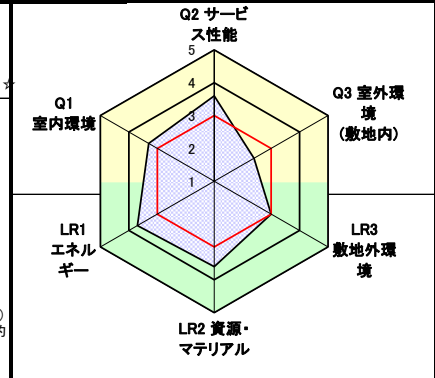
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



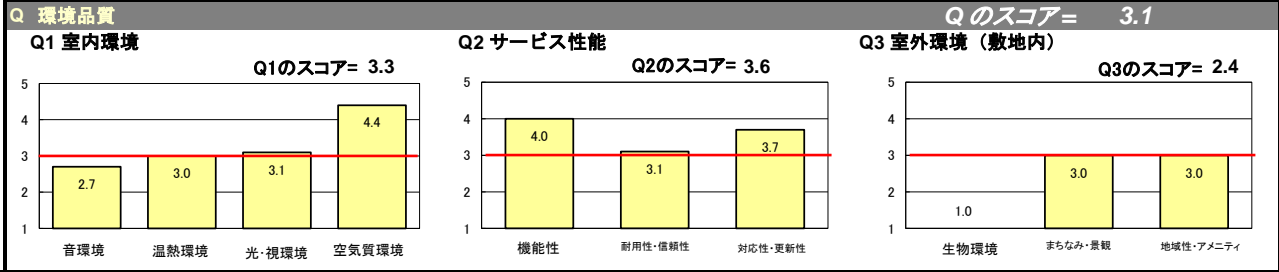
2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)



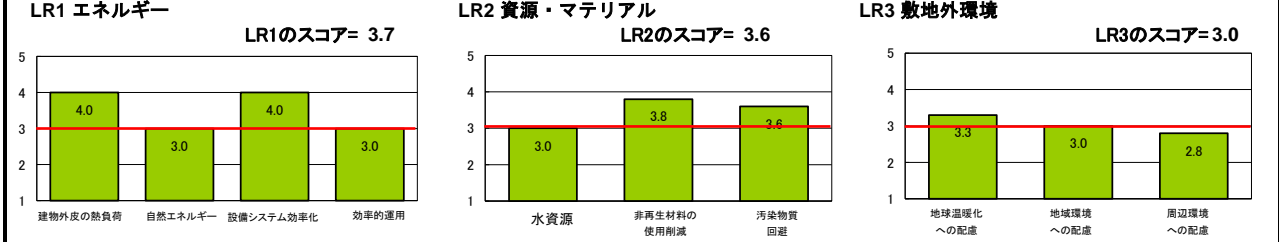
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



LR 環境負荷低減性



3 設計上の配慮事項

<p>総合</p> <p>南側正門と北側通用門より登校する児童割合が概ね半々であることから、東中庭に面して南北から77°ロー子できるどけいを介して昇降口に至る計画とした。昇降口からはバリアフリー対応の廊下・階段(2か所)とエレベーター(1か所)を介して、普通教室や特別教室に至る明快な内部動線を計画した。</p>	<p>その他</p> <p>0</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>夏場の日射による熱負荷の増大に配慮して屋根を外断熱とし、西日による入熱に配慮して西側開口部が5mには日射調整フィルムを計画した。採光と快適性に配慮して日照や眺望に優れた2,3階の西側に普通教室を配置した。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>西側に給食車専用出入口と荷捌き用の車寄せを計画し、給食車輦の搬入動線を児童の登下校動線と明快に分離できる計画とした。外気調和機械室や洗浄室・調理室への機械設置や保守に配慮し、西側にバリアフリー車両が乗入できるスペースを設けた。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>既存樹木を可能な限り存置し10%の緑地を確保した。児童と車輦の動線を分離し歩車分離に努めた。昇降口は通風と自然光豊かなどけいを介して東側中庭に面する計画とした。段差にスロープ・手摺を設け主通路には視覚障害者用ブロックを計画した。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>主力照明は高出力型を基本とし、共用部、屋外照明についてはLED仕様とする。衛生機器については節水型の器具を採用し、水栓についても節水型の器具を採用した。省エネルギー性に優れたEHP方式を採用した。換気による熱負荷の増大に配慮し、空調室の換気は全熱交換器を介するよう計画した。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>基礎地業・外構工事で使用する砕石や合材等は、再生材を積極的に活用する計画とした。内外仕上材は、再生材や地産木材(杉)等の地産材を活用する計画とした。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>給食室の室外騒音や排気音・臭気等に配慮し、各々の発生元については敷地境界に対して十分な離隔距離を設けるとともに困障を計画した。敷地内の雨水は全て雨水浸透設備による宅内処理として計画し、敷地外への雨水流出をできる限り抑制する計画とした。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される